

---

# ミドラーさん

ふさふさしっぽ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ミドラーさん

### 【Nコード】

N7226Y

### 【作者名】

ふさふさしっぱ

### 【あらすじ】

なにげない日常の中に、突如舞い込んだある奇妙なニュース。興味を示すもの、大袈裟に盛り上げる者、くだらないと馬鹿にするもの、さまざまだ。けれども事態はどんどん進み、人々の反応は変わっていく。

それは唐突に、退屈な日々の中に（前書き）

作中に、不謹慎かと思われる文章があります。  
この作品を書く上で、必要な表現でしたので、どうかご了承ください。

## それは唐突に、退屈な日々の中に

そのニュースは夕方、突然流れた。ぽつてりした唇の女性キャスターが、淡々と原稿を読み上げる。

「速報です。只今入った情報によりますと、K県Y市のH川付近で、衰弱した男性が発見され、救急車で病院に搬送されました。男性は脱水状態だということですが、外傷はなく、命に別条はないのとです」

女性キャスターは続ける。

「第一発見者の証言によりますと、この男性は、緑色の男に触れられたら急に体の力が抜けて、そのまま動けなくなった、と発見時に話したということです。男性は現在入院中で、回復には多少時間がかかるということです。警察では男性の回復を待つて詳しい事情を聞くことにしています」

この報道が流れた直後、ネット上では嵐のごとく意見が飛び交い、蒼然たる賑わいを見せた。

「奇怪な緑男」

「ついにゾンビの襲来か!？」

「おいおい、そんな大袈裟にすることじゃないだろ」

「ただの変質者」

次の日の各新聞も、男性の発言があまりにも奇妙なので、大きく取り上げた。スポーツ紙などはことさらオーバーに、でかでかと掲載した。とくに他に大したニュースや事件が無かったことも要因の一つだった。

最近は、特に平和だった。平和は良いことだが退屈である。世の中の人々は「平和を願っている」と言いながらも、その実、大きな事件を待ち望んでいる。自分に関わることは平穏安泰であってほし

いが、自分と関係の無いところでは、なにか面白いことでも起きないかな、と本当は思っている。その面白いこと、というのは悲しいかな、もちろんうれしい楽しいハッピーなことではない。

そこに突然のこの事件だ。皆、特に時間が有り余っているやつらは色めき立った。

だって、なにも刺激がないのは、つまらないじゃないか。

しかし事件が進展しなければ、いずれこの勢いも衰えるだろう。他に大きな事件が起これば尚更だ。人々は常に新しい情報を求めている。鍵は入院している被害者男性の今後の証言だと、誰もが思っていた矢先、別のところで事件は進展した。

「速報です。M県G市で、今日の夕方、緑色の男を目撃した、という女性からの通報があり、警察が急いで現場に駆け付けると、すでにそこには誰もいなかった、ということ。あ、また新たな情報が入ってきました。A県O市で、今度は高校生が、緑色の男を目撃し、驚いて走って逃げたと……高校生の母親が、警察に通報しましたが、こちら現場には何も……」

次の日から3日間かけて、全国各地で5人も人が緑色の男を目撃したと証言したのだ。目撃者の一人である老婆は、「すぐくゆっくりした動きで、左右に揺れながら歩いてきた。だからわたしでも逃げる事ができた」と証言した。その次の日は、ひと組のカップルと、主婦が目撃した。

警察が調べを進めて、目撃者の証言をまとめると緑色の男は

「全身緑色で、服を着ていない」

「ひどくゆっくりした動きで、左右に揺れている」

「ラ、ラーという声を発する」

という特徴が挙げられ、「ラー」という声は静かなところなら数メートル離れていても聞こえる程度の大きさらしいと推測された。この人物が同一人物かどうかはこの時点では分かっていない。

しばらく世間はこの緑男の話で持ちきりだった。だが誰かのいたずら説、恐怖心故の見間違い説も根強く残っていた。

そしてあくる日、最初に被害にあった男性、この時点では実質的被害にあっているのはこの人だけだが、の容体が回復し、意識がしつかりと戻ってきて、彼は最初の事件について大いに語った。彼の緑男についての説明は、これまで緑男に遭遇した12人ももの証言と全く一致していた。「ラ、ラー」言う声を発するという特徴も、まったく同じだった。事件当時彼はかなり酔っぱらっていて、緑男を不審に思いつつも「なんだお前」と声をかけ、肩に手をおいてしまったのだという。その直後、寒気がして、倒れてしまったという。

人々は大いに色めきだった。一番最初に緑男を目撃し、被害に遭い、今まで話せない状態だった彼が、現在まで判明している緑男の特徴と、まったく同じことを口にしたのだから。いたずら説は一部のひねくれ者やリアリストを除いて誰も口にしなくなった。

さらに同じ時刻に別々の場所で緑男が目撃され、その目撃者の中の一人がどういうわけか、軽はずみだったのか、緑男に自ら触れて最初の男性と同じように脱水状態になったという報道がされた。その人は大学生だったが、3日間入院しただけですんだ。緑男は複数いるらしい、ということも分かった。

その大学生の男性は、大学ではまるでヒーロー扱いだった。次第に若い人達の中で、緑男と遭遇するのはスリルを求めた一種の遊びみたいなものへと変化していった。

10代、20代の若い世代は、有り余るパワーをもてあましている場合が多い。多くが好奇心と行動力にあふれ、ついでにその場の

勢いで後先考えずに行動するという特徴を持っている。

数日の間に、緑男に衰弱状態にさせられた若者が3人現れた。

そのうちサラリーマンの中にも現れた。

中学生や、女の人も現れた。

テレビでは、緑男を目撃しても近寄らず、警察に通報してくださいと呼びかけたが、退屈な毎日に飽き飽きしていた人々は、緑男に興味しんしんで、一目見ようと自ら緑男を捜す者は、どんどん増えた。どうなるか面白がってわざと触れる者も、どんどん増えた。緑男は非常にゆっくりとした動きで、攻撃をしてくるわけでもない。逃げようと思えば簡単に、老人でも逃げられる。その上うつかり触ってしまったても死ぬことはないらしい。実際緑男に触って倒れて入院しても、死者は今まで一人も出ていなかった。入院の必要が無かった者さえいる。もちろん万が一を考える賢明な者、怖がって慎重に行動する者もたくさんいた。特に小さい子どもを持つ家庭などでは深刻な問題だ。

けれど一方で、緑男は退屈な日々刺激を与えてくれる格好の存在だった。いつしかネットでは、この緑男を「ラ、ラー」としゃべるということで、ミドラーさん、と呼ぶようになっていた。

そのうちミドラーさんという名前はニュースでも取り上げられ、皆の共通の呼び名となった。

それは唐突に、退屈な日々の中に（後書き）

もしかしたらホラーじゃないかも……いままでとはちょっと違った書き方なので、頑張ります。

ここまで読んで下さった方、ありがとうございます。まだ続きますのでよろしければお付き合いください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7226y/>

---

ミドラーさん

2011年11月21日17時04分発行